

インドネシアに来たのは8月7日でしたから、既に8週間です。最初の1週間は現地研修をジャカルタ市内のホテルで受けました。健康管理は当然のこと、交通や盗難など我が身の安全を第一に考えて行動するようにとの指導に改めて異国で暮す実感が沸きました。

8月14日午後に派遣先のタンゲラン市に移動。ジャカルタから車で1時間位です。スカルノ・ハッタ空港の南側、空港からの方が近い街です。ですから入居したアパートは空港関係者が多く住むのでホテル並みの部屋を想像していました。期待は往々にして裏切られますが、「住めば都」という諺どおりです。エアコンはありますし、お湯の出るシャワーもあります。(当然ながら湯船はありません)生活感が満載の部屋になってます(苦笑)。安全のため閉鎖的な部屋なので、風通しが悪いことが最後まで残っている不満ですネ。

移動した翌日の朝、近くの銀行に両替に行く途中、インドネシアの歩道のデコボコと雑然としたバイクの駐車を避けた時に、鉄柱の角でズボンにカギ裂きを作ってしまう、おまけに銀行の警備員から外の両替屋を紹介されるという体験に、「こんな国イヤだ〜」と本気で落ち込みました。(両替屋紹介は普通であることが後日判明しました)

派遣先は幼稚園から高校までを有する私立学校で、初めての日本語パートナーズ受け入れです。イスラム教徒が圧倒的に多いこの国で、「儒教」の学校です。最初の週は、職員室に居るだけ、陽気で親切な先生方と、簡単な日本語と私の下手くそな英語とインドネシア語で会話(?)でした。職員室には、掲示板に私の写真とプロフィールが貼っており、専用の机も用意されてとても嬉しかったです。生徒たちも、明るく元気で、「センセイ」「センセイ」と大きな声で挨拶します。

インドネシアの学校は朝が早いところが多く朝7時には始業です。ところが、この学校は10時からと珍しく始まりが遅いです。休み時間も12:40~の20分、15:00~の20分と日本の学校とチョット違います。

8月17日は、独立記念日でした。普段は落ち着きがないと感じていた生徒も、国家斉唱とお祈りの時間にはキチンとしています。

翌週からカウンターパート(CP)の先生と授業に入りました。最初は自己紹介です。日本から持参のお風呂で使う幼児用の日本地図を使いながらユックリとインドネシア語で生まれ故郷、いま住んでいる埼玉県、家族構成、好きなスポーツは剣道など説明しました。

埼玉県は知らなくても漫画「(クレヨン) しんちゃん」を知ってるかと聞くと、「知ってる」の大歓声。漫画大好き、アニメ大好きですね。2020年のオリンピック会場の話もしました。



クラス代表で男子生徒1人、女子生徒1人、自己紹介を先生が促すと積極的に出てきます。先生はベテランですし、私もそれなりの年齢なので簡単な打ち合わせでスムーズにチームティーチングができて授業への不安は一掃されました。

9月1日の犠牲祭には、もう1人の先生の田舎にお招きを受けました。牛を1頭屠^{ほふ}って、まるごと捌^{さば}き近所の貧しい人に喜捨する行事です。数えたら小さなレジ袋が250袋ほど在りました。皮を剥がされていく牛を平静な気持ちで見られていたのには、我ながら驚きました。同行した若い女性日本語パートナーズもシッカリ見えていて同じ感想でした。

さらに翌週にはジャカルタ日本祭りで書道と折り紙のお手伝い、派遣校の教職員のワークショップへの特別参加、他の高校の日本語クラブでの文化紹介、そして毎日曜日に剣道の稽古（防具と竹刀を持ってきて本当に良かった）と充実した時間を過ごせています。

交通事情に驚き、治安の悪さに不安を感じた自分がアンコットというローカルな乗り物で今では毎日のように学校へ行っています。